

所属・資格 総合文化研究室・教授

申請者氏名 土屋 弥生

研究課題		教育実践者の指導の振り返り（リフレクション）に関する現象学的・人間学的考察
報告の概要	研究目的 および 研究概要	本研究の目的は、学校教育現場の指導実践における教育実践者自身の指導の振り返り（リフレクション）内容に注目し、フッサール現象学およびヴァイツゼッカー人間学の視座から考察することにあった。研究方法としては、まず教師のリフレクションについての先行研究（コルトハーヘンの「ALACTモデル」、ヴァン＝マーネンの「教育的タクト」とこれらの周辺研究）の分析をおこない、研究成果を整理した。また、教育学以外の分野のリフレクションに関する現象学的研究についても国内外の研究動向の把握をおこなった。次に、これらの先行研究についてフッサール現象学、ヴァイツゼッカー人間学の分析視座から捉え直しをおこない、検討を加えた。また、これらの振り返りをもとに実際の教育現場、地域で活躍できる人材の育成についても検討をおこなった。
	研究の 結果	コルトハーヘン（2010）は著書『教師教育学—理論と実践をつなぐリアリスティックアプローチ』において「ALACTモデル」はリアリスティックな教師教育の立場で、教職を志望する学生が理論と実践の結び付け方を学ぶことを助けるということを主題としている（コルトハーヘン，2010，p.32）。省察の理想的なプロセスを説明するモデルとしての「①行為」「②行為の振り返り」「③本質的な諸相への気づき」「④行為の選択肢の拡大」「⑤試み」の循環的プロセスが示されている（コルトハーヘン，2010，p.54）。コルトハーヘン（2010，p.251）の「ALACTモデルの第2局面の質問を具体化する」にある9つの質問は、その教育活動の「文脈はどのようなものでしたか？」ということについて、教師である「私」と「生徒たち」の2者がそれぞれに「何をしたかったのか？」「どう感じたのか？」などということ振り返ることになっている。 現象学的な立場では、教育現場での文脈（教育活動の意味）を捉える際には、教師である「私」と「生徒たち」の二者というそれぞれに異なるものとして別々に対象化してとらえるのではなく、教師である「私」と「生徒たち」の「あいだ」（木村敏，2005）としてとらえることが重要で、それらは現象学的な本質直観によって捉えることができることが明らかになった。
	研究の 考察 ・ 反省	「②行為の振り返り」においては、教師の本質直観によって得られた教育活動の意味構造を基盤として、次の行為（実践）への具体的な指導方法の構築のために現象学的発生的分析を用いてリフレクションを行う必要があるのではないかと考える。 発生的分析とは価値意識の起源をたどり解体することであるが、その解体によって得られるのは「道」（指導方法）を構成している意味である。構成している「意味」を取り出すために解体をおこなうと言える。 すなわち、第2局面の「行為の振り返り」から第3局面の「本質的な諸相への気づき」の移行の段階において、現場で自らがおこなった体験学習や教育実践の起源をたどり解体し、そこにある指導を成立させている「意味」を取り出す。（指導にとって有効であったこととそうではないことを区別する）次の実践に生かすために必要なことがらを取り出すことを通して、効果的な指導方法を再構築することにつなげるという課題が明らかになった。

<p>研究発表</p> <p>学会名 発表テーマ 年月日/場所</p> <p>研究成果物</p> <p>テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者</p>	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>【研究発表】</p> <p>①日本学校教育学会，第 38 回研究大会 <u>土屋弥生</u>「教師教育におけるリフレクションの現象学的方法の検討」2024 年 7 月 27 日，白百合女子大学</p> <p>②大学地域連携学会，第 4 回大会 <u>土屋弥生</u>・伊佐野龍司・鈴木理・関慶太郎・青山清英「大学－学校連携事業における学生リフレクションに関する事例的研究－小学校のサマースクール事業を対象として－」2024 年 11 月 16 日，水戸市民会館</p> <p>③大学地域連携学会，研究フォーラム <u>土屋弥生</u>「大学と地域・学校の協働－教職ボランティア・インターンシップの課題と展望－」2024 年 11 月 30 日，日本大学文理学部</p> <p>【研究成果物】</p> <p>①<u>土屋弥生</u>，青山清英，鈴木理，伊佐野龍司，関慶太郎「地域連携による人材育成事業の現状から見た大学における地域人材育成」大学地域連携学研究第 4 号，2025 年 3 月発刊予定</p>
--	--